

教科書完全マスターシリーズ

文法解説の決定版，ついに登場！！

英文法の達人

< 中学 2 年 >

無料ダウンロード版

比較級・最上級



考える学習をすすめる会

あさひ学習自由区 塾長 石田 和彦 著

考える学習をすすめる会

<http://kangaeru.org>

は・じ・め・に

本シリーズは、その名の通り教科書を完全にマスターすることを目的とした、**基本重視**のテキストです。市販の解説書・参考書にくらべて、**圧倒的に分かりやすく**いていねいな説明に心がけ、**じっくり読むだけで教科書英文法のすべてが分かる自習用テキスト**を目指しました。

もちろん、考える学習をすすめる会のテキストですから、丸暗記やパターン練習ではなく、**文法用語の理解**・英文の組み立てや語順の**理解**を重視しました。覚えるだけでは決して身に付かない、本物の英語力を養うことができます。

本書の特徴は、**解説が3段階**に分かれていること。

解説 [基礎編]・・・各文法項目の理解に必要な基本的内容が、くわしく、わかりやすく説明してあります。英語(文法)がニガテな人もそうでない人も、必ずキチンとお読みください。

解説 [練成編]・・・基礎編をベースに、より**実戦的な内容**になっています。ここまでがマスターできれば、**教科書レベルの文法問題はバッチリ**です！

解説 [上級編]・・・英語の「なぜ？」に**鋭く迫った**、少しマニアックな解説です。**フツ**の解説では物足りない人の**知的好奇心**を満たしてくれるでしょう。

カレーに例えると、**甘口**(基礎編)、**中辛**(練成編)、**辛口**(上級編)です。一人ひとりのレベルに合わせて、無理なくご使用ください。

では、本書を十二分に活用し、**英文法の達人**を目指してください！！

このテキストの使い方

1．まずは【例文】を熟読^{じゅくどく}し、文の構成をしっかりと確認してください。

なお、本書では英文を自然な日本語には訳^{やく}していません。英語の語順どおりに、単語の意味だけで理解するようにしましょう。

英文の骨格となる、主語はS、動詞はVで目立たせてあります。

2．次に、解説[基礎編]をじっくりと読んでください。解説の、 、... は、それぞれの例文の番号を表します。

3．できれば、解説[練成編]まではマスターできるように。解説[上級編]については、余力^{よりよく}のない人は、すっ飛ばしてもかまいません。

4．最低でも2回は繰り返して読んでください。1回読んだだけですべて理解できれば誰も苦勞^{だれ くるう}しませんよ。

5．このテキストは解説中心のため、練習問題が収録^{しゅうろく}されていません。本書で理解した事柄^{ことがら}を確認するため、手持ちの教科書用ワークブックなどを使って問題を解いてみましょう。

13 . 比較 (1) 比較級 [その 1]

どちらかというところ、日本では「人と比べることはよくない」とする傾向があります。そのせいか、日本語には、何(誰)かと何(誰)かを**比べたことを表すのに特別な言い方はありません**。

ところが、英語は正反対。比べたら差が付いてしまったことをハッキリと意識し、特別な言い方をします。

【例文】

S V 原級
 0 Ken is tall.
 ケンは 背が高い。

S V 比較級 (s)
 Ken is taller than Aya.
 ケンは より背が高い ~と比べて アヤ(が)。

S V 比較級
 Q : Who is younger, Yumi or Mika?
 誰が より若い, ユミ それとも ミカ ?

S V
 A : Mika is.
 ミカが です。

S V 比較級 (s)
 Tom swims faster than I.
 トムは 泳ぐ より速く ~と比べて 私(が)。

解説 [基礎編]

0 形容詞(モノの状態や性質を表す) tall を用いた、フツの表現です。

この文は、「ケン
は背が高い」という、一般的な事実を述べたもの。**誰かと背比べをしたわけじゃありません。**

このように、何(誰)とも比べることなく使われる形容詞の形を**原級**といいます。原級は、動詞の原形と同じく、「元の形」を指します。

ケン



今度は、ケンとアヤが背比べをしていますね。右のイラストのとおり、ハッキリと差がついてしまいました。

英語では、**比べたら優劣がついてしまったことを強調するために**、形容詞の後に **er** を付けて**特別扱い**します。

この、**er** が付いた形のことを**比較級**と言います。比較級は、単独で「**より~**」と訳し、原級とハッキリ区別するようにしましょう。

ケン

アヤ



次に、比較級の後の **than** に**注目**してください。フツは「**~より**」と訳されますが、このテキストでは「**~と比べて**」とします。理由は、

- ・ **比較級**といっしょに使われることを意識するため。
- ・ 比較級だけで「より~」という意味になるので、**than** も「~より」だとゴチャゴチャしちゃうから。

注意しなければならないのは、**than** の後が**主語(人称代名詞なら主格)になっている**点。これについては、4~5 ページで。

この例文，単語の意味だけで文全体の
意味がわかりますか？

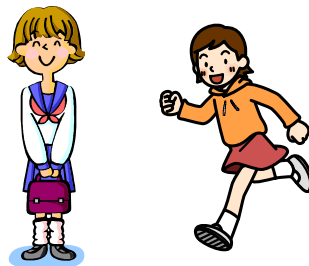
自然な日本語に直すと，

「ユミとミカとではどちらが若いですか。」

となりますが，コイツがクセモノ。

逆に，この日本語を英文に直すとき，

ユミ 16 歳 ミカ 13 歳



「どちら」に釣られて “which” と書いてしまったり…。

日本語からは比較級が見えてこないのて，“young” を使ってしまったり…。

何もいいことはありませんね。Which is young, Yumi or Mika? では，絶対にマルはもらえません。

確かに，which は「どちら」という意味ですが，これは「(生)物」のときに使います(次のページの 参照)。「人」のときは who です。

また，or は「それとも」という意味。「ユミ それとも ミカ」と明らかに比較しているのですから，than がなくても比較級を使います。

この文に限らず，自然な日本語というのは，英語に戻すのがやっかいなので，和訳になど頼らず，【例文】にあるとおり，単語の意味だけで理解しましょう。

ついでに，答えの文 Mika is. は，
Mika is younger than Yumi. の.....部が省略されたものです。

S **V** 比較級
Which **is** **smaller**, Japan **or** Australia ?
 どちらが です より小さい , 日本 それとも オーストラリア ?

文中の fast は「速く」という意味の副詞(動詞などを修飾する)。形容詞だけでなく副詞にも比較級があります。

解説 [上級編] than の品詞は？

なぜ、than の後が主語(人称代名詞なら主格)なのか？ まずは、than が何詞なのかを知っておかなければならない。ジツはこれ、**接続詞**なのだ。

than のもとの意味は、「**～である(～する)のと比べて**」。than の後には「**主語・動詞**」が来て、

S	V		接続詞		s	v
Ken	is	taller	than	Aya	is	tall.
ケン	は	です		アヤ	が	です
		より背が高い	～のと比べて			背が高い。

S	V		接続詞		s	v
Tom	swims	faster	than	I	swim	fast.
トム	は	泳ぐ		私	が	泳ぐ
		より速く	～のと比べて			速く。

というのが「本来の姿」。これだとクドイから、動詞(v)以下を省略してしまった。せめて、Ken is taller than Aya **is.** と、**is** だけでも残して

おいてくれれば、**接続詞**っぽく見えるのだが...

これじゃあ、than は、限りなく**前置詞**に近くなってしまふ。than ~ で「~より」とすると、to ~ 「~へ」、with ~ 「~といっしょに」などの前置詞と同じに見えても不思議ではない。

そのため、「私は彼より古い(年上)です」を英文に直すとき、

I am older than **he**. に違和感を持ち、

I am older than **him**. の方が「自然だ」と思う人が出てくる。

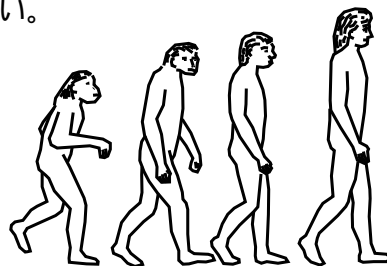
前置詞とは、「(代)名詞の前に置いて、その(代)名詞と他の語とを関係を表す」品詞だが、**前置詞の後の代名詞は目的格(~を・~に)**と決まっているからね。“with him”と同様に、“than him”になると考えてしまうわけだ。逆に言うと、このような疑問が生じるのは英語力のある人ということになるが...

残念ながら、I am older than **him**. では、**マルはもらえないだろう**。ただし、**アメリカ英語ではこのような言い方もアリ**。だから、間違っているわけではない。「比較級の後の than は**前置詞**で、than he は**形式ばった言い方**」という解説さえある。

個人的には、「than は、**接続詞から前置詞へと変化しつつある最中**」だと考えている。こんなにも「接続詞らしさ」を失っているのだから。

ひょっとすると、今から何(十)年後かには、「**than は前置詞**」という**解釈**が一般的になっているかもしれない。

以降のページでは、than の後
を主語扱いません。



13 . 比較 (2) 最上級 [その 1]

2つのモノを比べるときは比較級が大活躍しますが、3つ以上だと大変。^{しゅう}収拾^{しゅう}がつかなくなってしまうですね。

3つ以上のモノを比較したとき、知りたい情報は、「**最も～なのは何(誰)なのか**」ということ。**3つ以上の中でトップになったモノも**、比較級とは別の形で**特別扱**^{あつか}いするんです。

【例文】

S V 最上級
Ken is **the tallest** in his class.
ケン **は** **です** (その) **最も背が高い** ~の中で 彼の クラス。

S V 最上級
This pencil is **the longest** of the three.
この 鉛筆 **は** **です** (その) **最も長い** ~の(中で) その 3本。

S V 最上級
Q: Who swims **the fastest** of all?
誰 **が** **泳ぐ** (その) **最も速く** ~の(中で) みんな ?

S V
A: Tom **does**.
トム **が** **する**。



解説 [基礎編]

まず, Ken is the tallest までを見てください。

3個(人)以上で比べてトップだったときは, そのことを強調するため, 形容詞の後に **est** を付けて特別扱いします。

この, **est** が付いた形のことを **最上級** と言います。最上級は, 単独で「**最も**」と訳し, 原級や比較級とハッキリ区別するようにしましょう。

次に, 最上級の前には **the** があることに注目! the の意味は「その」となりますが, **1つしかない特定のモノ**に付けます。「最も」なモノは **一つしかありません**から, 前に the を付けるのです。

「一等賞」を表す最上級の方が, 比較級より賞品が豪華(erよりも1文字多い)で, その上「副賞 (the)」までもらったと思ってください(^ ^)。

Ken is the tallest までで「ケン是最も背が高い」。

だからと言って「世界一」というわけでもないでしょうから, この後に, **最上級が成り立つ, 限定的な状況** を付け加える必要があります。

“in his class” がそれ。ケンが tall という点でトップなのは, 「彼のクラスの中」という範囲内なんですね。他に, in Japan のような言い方もあります。

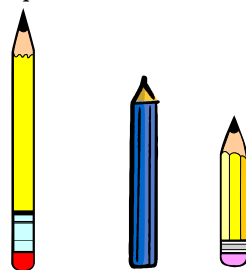
in ~の「~」には, **範囲・場所**を表す語(句)がきます。

This pencil is the longest までの組み立ては と同じ。

次に, 最上級が成り立つ状況ですが, では **of** が使われています。

ふつう of の意味は「~の」なのに, 最上級のときは「~の中で」と訳されます。こ

this pencil



れでは、**in との区別**がつかなくなってしまう。一般的には、

in ~ の「~」は、**場所**や**範囲**を表す
 (in **Japan**, in the **world**, in my **class** など)。

of ~ の「~」は、**複数**を表す。
 (of the **three**, of **all** など)。

という説明がなされます。が、in はともかく、of の方はイマイチ分かりにくいので、10~11 ページであらためて触れます。

fastest は、副詞 fast の最上級です。**イギリス英語では、副詞の最上級の前に the は付けないことになっています。**が、中学英語のベースである**アメリカ英語では、例文のように the を付けます**から、形容詞・副詞の区別なく最上級の前には the を付けておいた方が、混乱しなくていいでしょう。

なお、答えの文 Tom does. に注意してください。本来なら、
 Tom swims the fastest of all. となるのですが、swims
 以下が問いの文と完全にダブっていますので、**代動詞 do(es)** に置きかえています。

解説 [練成編]

ここまで、比較級には語尾に er、最上級には est を付けることを学びました。が、残念ながら、er, est には付け方のバリエーションがあります。パターンは**規則動詞の ed の付け方と同じ**ですので、これが身に付いている人は楽勝ですよ。

er, est の付け方

ア．ただ er, est を付けるだけ（下のイ～エ以外）

イ．r だけ, st だけを付ける（e で終わっているもの）

	原級	比較級	最上級
例	large	larger	largest
	nice	nicer	nicest

ウ．語尾の y を i に変えて, er, est を付ける（y の前が子音字）

例	easy	easier	easiest
	happy	happier	happiest

エ．最後の字を重ね書きして, er, est を付ける（最後の3文字が子音字・母音字・子音字のとき。ただし, 例外アリ）

例	big	bigger	biggest
	hot	hotter	hottest

母音字 …… a, i, u, e, o

子音字 …… a, i, u, e, o 以外

イ～エは、語形変化の問題として、定期テストでひんぱんに出題されます。付け方のパターンを完全にマスターしてください(なぜこのようなバリエーションがあるのかは12ページで)。

解説 [上級編] in と of の使い分けについて

「最上級の後の『～の中で』が、in なのか of なのか？」で迷ったことはないだろうか。ここでは、8 ページの説明をもう少し掘り下げてみよう。

in の後 …… **場所**や**範囲**を表す語(句)

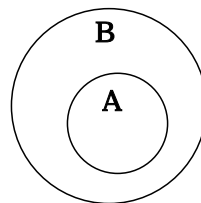
in **Japan** のように**数えられないもの**，
in my **class** のような**集合名詞**(複数のモノが集まってできた集団を表す名詞)

もともと、**in** ~ 「**～の中で**」は、場所・空間(時間)の**範囲内**を表すから、最上級の文中で使われる in を特別に意識する必要はない。

of の後 …… **複数**を表す語(句)

複数形がモロに使われていなくても、
of the **three** of the three **boys**
of **all** of all the **students**
のように、後に複数形が省略されていると考えればよい。

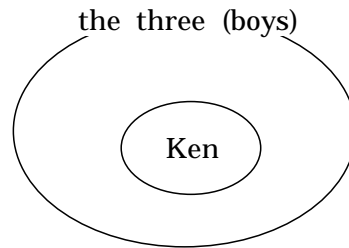
of は「A of B」で、「**B に含まれる一部としての A**」というのが本来の意味。



最上級の場合、A is 最上級 of B . という文で、**主語 A が B という「集団」に含まれている**。どーゆーことかと言うと、

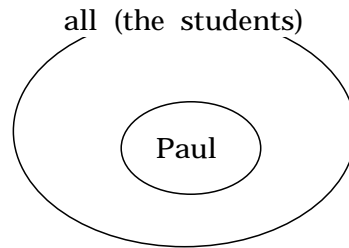
S **V** 最上級
Ken is the tallest of the three (boys).
 ケンは です (その) **最も背が高い** ~の(中で) その 3人の (少年たち)。

主語 Ken は , the three (boys)
 に含まれる。



S **V** 最上級
Paul swims the fastest of all (the students).
 ポールは 泳ぐ (その) **最も速く** ~の(中で) すべて (その 生徒たち)。

主語 Paul は , all (the students)
 に含まれる。



「場所のときは in で決まり！」だが , in か of かで迷ったら ,

主語が**集合名詞(単数)に所属する**ときは , **in**

主語が**複数を表す集団に含まれる**ときは , **of**

と区別しておこう。

解説 [上級編] なぜ , er , est の付け方が何通りもあるのか？

ズバリ、発音が変わってしまうのを防ぐため。ために、9 ページのイ～エにそのまま er を付けてみると・・・。

イ . **largeer** は、「らーチア」ではなく、「**らーチアア**」と読むことになる。オリジナルの発音だけではなく、強く読む部分まで変化してしまうので、これはマズイ。

ウ . 英米人に「**easier** を発音してみて」と頼むと、首をかしげるだろう。ムりに読むと「**イースヤア**」か「**イーズヤア**」ってな感じが...

エ . **biger** とすると、i が短母音(母音1文字分)から二重母音(母音2文字分)に変化し、「**バイガア**」になってしまう。これじゃあ、big の比較級には聞こえない。

このように、発音の変化を防ぐために、敢えて er , est の付け方にバリエーションを生んだ。言葉って、「書く」よりも「話す」方が先に誕生したのだから。

13 . 比較 (3) 比較級・最上級 [その 2]

残念ながら、「どんな形容詞(副詞)でも、比較級は er , 最上級は est を付ければよい」というわけではありません。自分は語形変化せず、他の語の比較級・最上級の助けを借りて比較級・最上級を作る形容詞(副詞)があるんです。

【例文】

S V 「比較級」
 This flower is **more beautiful** than that one.
 この 花は です より(多く) 美しい ~と比べて あの モノ。

S V 「比較級」
 Soccer is **more popular** than tennis.
 サッカーは です より(多く) 人気のある状態 ~と比べて テニス。

S V 「最上級」
 This flower is the **most beautiful** of all.
 この 花は です (その) 最も(多く) 美しい ~の(中で) 全て。

S V 「最上級」
 What is the **most interesting** subject for
 何が です (その) 最も(多く) 興味深い 科目 ~にとって
 you?
 あなた?



解説 [基礎編]

- ・ の **more beautiful** は、**beautiful** の比較級、
 の **more popular** は、**popular** の比較級 です。

このように、**長いスペルの形容詞(副詞)**は、語尾に er を付ける(1語)のではなく、前に **more** を付けて、**2語セットで「比較級」**とします。

more の正体は、**much(many)**の比較級。そのため、例文では **more** の意味を「**より(多く)**」としてありますが、これについては17~18ページで。

- ・ の **most beautiful** は、**beautiful** の最上級、
の **most interesting** は、**interesting** の最上級 です。

このように、**長いスペルの形容詞(副詞)**は、語尾に est を付ける(1語)のではなく、前に **most** を付けて、**2語セットで「最上級」**とします。

most の正体は、**much(many)の最上級**。そのため、例文では most の意味を「**最も(多く)**」としてありますが、これについても 17~18 ページで。

解説 [練成編]

ここまでで、比較級・最上級の作り方には、次の2通りがあり、

スペルが短いものは、語尾に er, est を付ける (1語のまま)。

スペルが長いものは、前に more, most を置く (2語になる)。

ということになっていますが...。スペルが**短い**・**長い**って、ちょっとバク然としてますよね。^{げんみつ}厳密にはどのように区別するのでしょうか？

「^{おんせつ}音節の数」を持ち出した解説が多く見られますが、^{むずが}音節そのものの説明が**難**しいうえに、音節の数による区別も曖昧です。

中学レベルなら、次のように考えてください。

形容詞(副詞)の文字数を x とすると、

$x = 5$ (**5文字以下**) なら**短い**。

$x = 7$ (**7文字以上**) なら**長い**。

$x = 6$ (**6文字**) のときは、
辞書で確認する。 pretty prettier prettiest
useful more useful most useful

この説明も完全とは言えないのですが、中学生に分かりやすい、ハッキリとした**基準**を示すために、^あ敢えて文字数で分けてみました。

解説 [上級編] なぜ、スペルが長いものに er , est を付けな いのか?

一般的には、「発音しにくいから」とされる。確かに、interesting に er を付けて interestinger 「インタリスティンガァ」では言いにくい。ウル ラマンシリーズに出てくる怪獣^{かいじゅう}の名前みたいだし…(笑)。

ここからはちょっとハイパーな解説です。下に並べた**スペルが短い**形容詞(副詞)と**スペルが長い**形容詞の、意味を考えてみよう。それぞれのグループに「特徴的な何か」が発見できると思うのだが…。

スペルが短い形容詞(副詞)

tall , long , small , hot , fast

スペルが長い形容詞

beautiful , interesting , difficult , popular

どう? 何か気づいた?

スペルが短いものは、**見た目・計測**によって**数量的に比較できる**。
誰が比べても結果は同じ。

スペルが長いものは、**数量的に比較できない**。
感覚や好みの問題なので、比較したとき、**人**
によって意見が分かれる可能性がある。

という決定的な違いがあるのだ(もちろん例外もある。nice や easy などは、見た目や計測で比べることはできない)。

想像するに、スペルが短いものは、**比較結果がハッキリしている**ケースが多いので、**er , est をつけて堂々と語形変化させる**。

それに対して、スペルが長いものは、比較結果の**見た目や数量的判断**
が難しいので、形容詞(副詞)自体を**変化させず**、前に much の比較級・
最上級を付ける。

「より多く～」、「最も多く～」とすることで、形容詞の内容そのものに**優劣**を付けているのではなく、**内容の度合い**(beautiful なら「美しさの度合い」、popular なら「人気度」)**が「多い」(高い)ことを示している**のではないか？

このように、**ハッキリと分かるもの**には er, est と付け、**判断が難しいもの**には前に more, most を置く。前者にはスペルの**短いもの**が多く、後者は**長いもの**がほとんどだったので、結果としてこのような使い分けになったのではないか？

以上、**独断と偏見**に満ちた**仮説**です。

13 . 比較 (4) 比較級・最上級〔その3〕

比較級・最上級の作り方は、

ア．語尾に er, est を付ける。

イ．前に more, most を置く。

の他に、**不規則に変化するもの**があります。

【例文】

S V 比較級

I have more books than you.
 私は持っている より多くの 本たちを ~と比べて あなた(が)。

S V 最上級

She has the most money of the four.
 彼女は持っている (その) 最も多くの お金を ~(の中で) その 4人。

S V 比較級

This camera is better than mine.
 この カメラは です よりよい ~と比べて 私のもの。

S V 最上級

This is the best computer in the shop.
 これは です (その) 最もよい コンピュータ ~の中で その 店。

S V 比較級

Jiro sings better than I
 ジローは 歌う より上手に ~と比べて 私(が)。

S V 最上級

I like summer the best of the four
 私は 好む 夏を (その) 最もよく ~(の中で) その 4つの

seasons.

季節たち。



解説 [基礎編]

例文の解説に入る前に…。

many の意味は「**たくさん**の」(形容詞)。**数えられるもの**

much の意味も「**たくさん**の」(形容詞)。**数えられないもの**

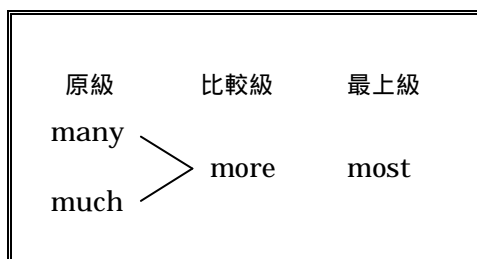
「**たくさん**」(副詞)もアリ。

good の意味は「**よい, 上手な**」(形容詞)。

well の意味は「**よく, 上手に**」(副詞)。

文中の **more** は, **many の比較級** です (book は数えられる)。「**more はスペルが長い形容詞の比較級を作るときだけに使う**」と思い込んでいる人がいますが, 例文のように **many, much の比較級として, 単独でも使われます**。

文中の **most** は, **much の最上級** です (money は数えられない)。「**most はスペルが長い形容詞の最上級を作るときだけに使う**」と思い込んでいる人がいますが, 例文のように **many, much の最上級として, 単独でも使われます**。



の **better** は, 形容詞 **good の比較級**,

の **best** は, 形容詞 **good の最上級** です。

この **better** は、副詞 **well** の**比較級**です。

この **best** も、副詞 **well** の**最上級**ですが、動詞 like とセットで用いられるときは、次の点に注意してください。

・ **原級** I like dogs **very much**.
 私は 好む 犬たちを とても **たくさん**。

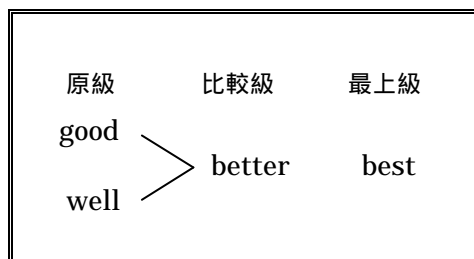
・ **比較級** I like dogs **better** than cats.
 私は 好む 犬たちを **よりよく** ~と比べて 猫たち。

・ **最上級** I like dogs the **best**.
 私は 好む 犬たちを (その) **最もよく**。

「好みの度合い」を言うとき、原級では (very) much 「たくさん」を使うのに対して、比較級・最上級では、more, most ではなく、better, best が使われます。

そのため、「**better, best** は、『good, well, “very much”の**比較級・最上級**』である」などという解説を見かけますが、これは**メチャクチャ**ですね。

better, best は、あくまで good, well の比較級・最上級です。理由はよく分かりませんが、たまたま like のときはこれらが用いられるだけなのです。



13 . 比較 (5) 同等比較

比較級・最上級は，比べたら差がついてしまったときに使われますが，「同じ(くらい)」だったときの言い方もあります。

【例文】

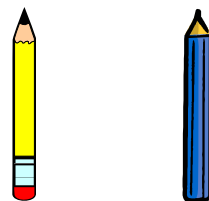
	S		V		原級		(s)
This	pencil		is		as long as		that one.
この	鉛筆は		です		同じくらい 長い ように		あの モノ(が)。
					同じくらい長い		

	S		V		原級		(s)
Aya		is not		as tall as			Ken.
アヤは		ではない		同じくらい 背が高い ように			ケン(が)。
				同じくらい背が高い			

解説 [基礎編]

右の図の2本の鉛筆は，ほぼ同じ長さです。このように，比べても(ほとんど)差がないとき，すなわち「同じくらい~」というときは，形容詞(副詞)の前後を as でサンドイッチして，as ~ as という形になります。(one「モノ」は pencil の代わり。)

this pencil



比較しても差が付かなかったのですから，「~」には原級がきます。

ふつうは、「as ~ as」でセット扱いますが、例文の「単語の意味」に注意してください。**前の as と後の as とでは、意味が違います**ね。これについては、**as の後が主語(人称代名詞なら主格)になっている**点もふくめて、22ページでくわしく触れます。

as ~ as の否定文です。文全体の意味はどうかと思いますか？

「アヤはケンと同じくらいの背の高さではない」

とする人が意外に多いのですが、ちょっと待ってください。これじゃあ、どちらかが背が高いのか分らないでしょう。英語では、**こんな曖昧な言い方はしません**。

この場合、not は「as tall as Ken」の部分を否定しています。

Aya は、「as tall as Ken」ではない。



Aya は、「Ken と同じくらい背が高い」状態にとどいていない。

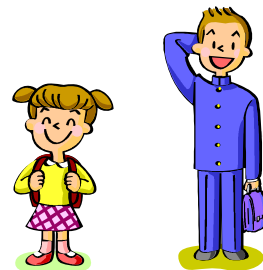


Aya は Ken ほど背が高くない。

という意味になります。

Aya

Ken



パターン化すると、A is not as ~ as B. で、「A は B ほど ~ ではない」となりますが、暗記ではなく理解で身につけてください。

ついでに、次の3つの文は、ほぼ同じ内容になります。

Aya is not as tall as Ken.

Aya is shorter than Ken.

Ken is taller than Aya.

解説 [上級編] 前の as と後の as の違いは?

前の as は「同じくらい」という意味の副詞(ここでは形容詞や副詞を修飾する)。as ~ as の「意味の主演」と言える。

後の as は, than と同様, 接続詞。「~である(~する)ように」という意味。したがって, as の後には「主語・動詞」が来て,

	S		V			接続詞			s		v			
This	pencil		is		as		as		that	one		is		long
この	鉛筆は		です		同じくらい		長い		ように	あの	モノが		です	長い。

というのが「本来の姿」。これだとクドイから, 動詞(v)以下を省略してしまった。その結果, 本来の切れ目は,

This pencil is as long / as that one (is long).

だったのに, as ~ as の結びつきが強くなり,

This pencil is as long as that one (is long).

の方が「自然に見える」ようになってしまった。ただし, than は「前置詞化」しつつあるのに対し, as の場合は最初から前置詞としての as(~として)が存在するので, as の後を目的格にするケースはあまり見られないようである。

無料ダウンロード版はココまでです。